

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援・放課後等デイサービ くすのき広場		2025年 10月 31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		出来るだけ法定の人数を配置します。	配置によって見守りが弱いところもあり、職員同士の声掛け が必要だと思われる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	玄関、廊下、トイレに手すりを設置しています。	必要に応じて積極的に改善するように努力します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		利用後に清掃や消毒を行っています。	引き続き環境整備に努めます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	個別対応が可能な個室数を確保をし、使用していただいています。	引き続き取り組んでまいります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	3	月1回事業所会議を実施し、状況の把握と必要な改善を行っています。	引き続き取り組んでまいります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向けの評価を実施、その評価を基に職員で改善検討会議を設けています。	引き続き取り組んでまいります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	毎日話し合い、月1回事業所会議を実施し、都度、状況の把握と必要な改善を行っています	引き続き取り組んでまいります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		今後努力します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		YouTube等による虐待防止研修、身体拘束研修、防災研修等利用者の事例研修を行っています。	今後も研修による振り返りを行い、支援の共有や改善に繋げてまいります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページ公表しています。	公表忘れないように意識する
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		客観的情報と主観的情報に基づき、分析した上で計画を作成しています。	引き続き取り組んでまいります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		計画を作成時にチームでモニタリングを行い、皆の意見を聞きながら計画を作成しています。	今後も最善の利益を考慮した検討を行います。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個々の計画を職員間で閲覧できるようにし、計画に沿った支援に取り組んでいます。また、計画が変更になった際の支援の共有、確認をミーティングや定例会議で行っています。	引き続き取り組んでまいります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の行動観察を意識したアセスメントを使用し、確認しています。	引き続き取り組んでまいります。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインのねらいや支援内容を踏まえながら、適切な支援の項目、具体的な支援内容の設定に努めています。	引き続き取り組んでまいります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	3	日々みんなの意見を聞きながら作成しています。	今後もプログラムのチームで意見を出し合い、共有してまいります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	月ごとに季節や行事を取り入れた活動を計画し、内容を変えて活動に変化を持たせています。	引き続き取り組んでまいります。

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		工作・音楽・運動など複数の活動から自分で選べる工夫をしている。	集団活動に苦手意識を持つ子への段階的支援が不足 活動の導入や役割の工夫を通じて、段階的に参加しやすくする必要がある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	3	情緒不安定な子や体調が心配な子について情報共有して対応を統一している。	支援内容ごとに担当者を明確にしておく必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	こどもの様子や良かった支援、気になる行動を共有している。	振り返りが時間の都合で省略されることがある 短時間でも毎日実施できるよう、時間の確保が必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			記録の活用が不十分なことがある 定期的な振り返りや職員間ミーティングで記録内容を検討する機会を増やす。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年ごとにモニタリングを実施支援の効果や変化を確認し、本人・保護者と面談し、意見も取り入れている。	こども本人の意見が反映されにくい 年齢や理解に応じて、本人の希望や感想を聞く工夫が必要。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		工作（創造性）＋道具の後片付け（生活力）を組み合わせた活動を実施	こどもの興味や発達段階に応じた調整が不足同じ活動でも個別に目標を設定し、無理なく参加できる工夫が必要。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		活動内容をいくつか提示し、こども自身に選ばせている絵本・工作・運動などからその日の気分で選べるようにしている。	支援者が無意識に誘導してしまうことがある 本人の意志を尊重し、見守る姿勢を意識する必要がある。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関の会議に該当する児童は在籍していない。	今後該当する児童が出た場合には、その児童の状況をよく理解している職員が計画的に参加できるよう体制を整えている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	地域の相談支援専門員と連絡体制を整備、支援計画やサービス調整をスムーズに行っている。	引き続き取り組んでまいります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		こどもの下校時刻を毎日確認し、送迎時間を調整しているこどもの安全確保に努めている。	引き続き取り組んでまいります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		6	交流していません。	現在、交流は行っていないが、必要に応じて連絡・情報交換ができる体制を整えている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4		未だこのケースはないが、必要性が生じた場合実施する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3		現時点で児童発達支援センターとの具体的な連携は行っていないが、今後必要に応じて相談・助言・研修の機会を設ける体制を整えている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		現時点では、放課後児童クラブや児童館との交流や、地域のこどもの共同活動の実施はないが、今後の支援計画に応じて、連携や交流の機会を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3		参加するように努力します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日々の送迎時や連絡帳を通じて、こどもの様子や変化について保護者とこまめに情報交換を行っている。保護者との対話を大切にし、発達の状況や課題について共通理解を深めながら支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			現時点では家族支援プログラムや研修の実施実績はないが、今後のニーズに応じて、ペアレント・トレーニングや情報提供などを行える体制づくりを検討している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用開始時に運営規程・支援プログラム・利用者負担等について書面を用いて丁寧に説明し、保護者からの質問にも個別に対応している。内容を分かりやすく伝えるよう心がけ、必要に応じて再説明も行っている。	初回説明に偏りがちであるため、内容の理解度を確認しながら、継続的に必要事項を説明できる体制の整備が今後の課題である
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		サービス提供計画の作成にあたっては、こどもや保護者の意思を尊重し、こどもの最善の利益を優先する観点から、面談等を通じて意向を丁寧に確認する機会を設けている。可能な範囲でこども本人の希望も取り入れ、計画に反映している。	現在は保護者からの聞き取りが中心となっているが、今後はこども本人の意思確認や参加の機会も大切に、計画作成時により丁寧に意向把握を進めていく必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		同意取得時には署名・押印をいただき、控えを保護者へお渡ししている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者からの子育ての悩みや不安に対して、日常の会話や面談の機会を通じて丁寧に対応している。必要に応じて訪問や助言を行い、安心して子育てができるよう支援を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	5	現時点では、父母の会や保護者会、きょうだい同士の交流の機会は設けていないが、保護者同士や家族間のつながりが生まれる機会の重要性を踏まえ、今後二一スや状況に応じて検討していきたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談窓口、相談者を設け、重要事項説明書に明記し、契約時に説明をさせていただいていきます。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月一回通信を配っています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の保護に十分配慮し、利用目的を明確にしたうえで適切に取り扱っている。個人情報には鍵のかかる保管場所で管理し、職員間でも必要最小限の共有にとどめている。職員に対しても定期的に個人情報保護の重要性について周知している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		保護者と意思疎通や情報伝達の方法について共有し、1人ひとりに合ったコミュニケーションを図りました。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		現時点では地域住民を招いての行事等は行っていないが、地域とのつながりを大切にするため、今後行事への招待や施設見学等を検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等の各種マニュアルを整備し、定期的に職員間で内容を確認・共有している。また、火災・地震・不審者対応等の訓練を定期的の実施し、職員の対応力向上に努めている。必要に応じて保護者への説明や周知も行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			業務継続計画（BCP）の作成しているが、現在は避難訓練等を実施しながら、策定に向けた準備を進めている。緊急時に備えた職員の対応力向上を目指す。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		初回アセスメント時に、服薬の有無、てんかん発作の有無や対応方法など、健康状態に関する情報を保護者から聴取し、支援に活かしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			現時点では保護者からの申告をもとに対応しているが、今後は医師の指示書を確実に提出いただく体制を整え、より正確で安全な対応に努めていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、職員に対して定期的な安全管理研修や緊急対応訓練を実施している。事故防止や感染症対策など必要な措置を講じ、安全に配慮した環境で支援を行っている。また、送迎車に降り忘れ防止装置を設置し、職員で研修、訓練を行いました。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		こどもの安全確保のため、安全計画に基づく取組内容を保護者や家族に定期的に説明・周知している。緊急連絡方法や対応手順についても共有し、家族との連携体制を強化している。	安全計画の内容について家族への周知が十分ではなく、今後は説明会や文書配布などの方法で情報共有を強化していく予定である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット事例を事業所内で共有し、職員全員で原因分析と再発防止策の検討を行っている。定期的なミーティングで改善点を話し合い、安全管理の向上に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止のため、職員に対して定期的に研修を実施し、最新の知識や対応方法を共有している。研修参加状況を管理し、全職員が適切な理解を深められるよう努めている。	虐待防止研修の実施が不定期であり、今後は計画的に研修機会を設け、職員全員の参加を促進する体制づくりを進めていく予定である
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		やむを得ず行動制限・身体拘束を行う時間と理由について職員間で検討・周知し、保護者へ行動制限・身体拘束に関する説明書・実施同意書を基に説明を行い、個別支援計画に記載し同意をいただいております。	